

観光立国の実現に向けた  
規制の見直しについて  
(クルーズ船入港時の入国審査手続の見直し)

2014年4月2日

一般社団法人 日本経済団体連合会

# 規制見直しの必要性

## I. 観光立国の実現は、わが国の成長戦略の重要な柱

### 1. 少子高齢化・人口減少社会の到来

→ 観光振興により、交流人口の拡大、地域活性化・雇用創出を図る必要  
(観光は、地域の一次産業をはじめ幅広い産業への波及効果)

### 2. 急激に増加する世界の旅行需要(2012年には10億人超が国外旅行)

→ 今後もアジアを中心に伸びると予測される需要を取り込むことが重要  
(日本は、GDPで世界3位だが、2012年の外国人客数は世界33位)

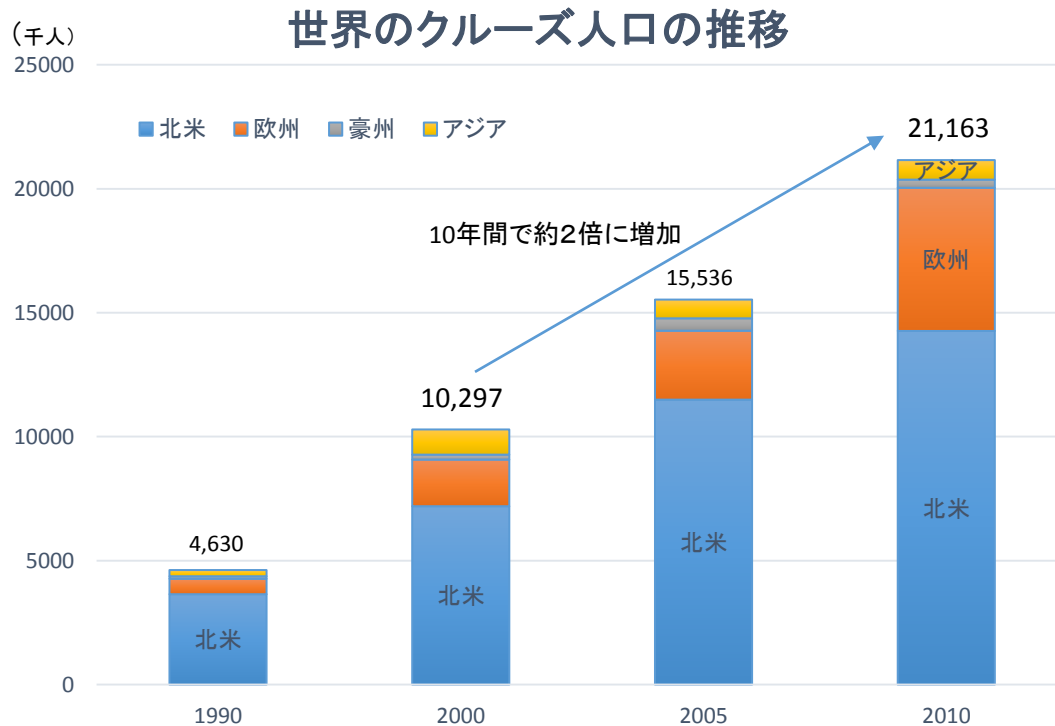
## II. 新たなフェーズに入るわが国の国際観光

1. 2013年の訪日外国人旅行者数は1,036万人と、2003年のビジット・ジャパン事業開始以来の政府目標だった年間1,000万人を初めて突破。

2. 2014年1月、安倍総理は第3回観光立国推進閣僚会議で、本年夏を目途に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を改定するとともに、各閣僚に対して、アイデアを総動員し、外国人旅行者に不便な規制や障害を徹底的に洗い出すよう指示。

# わが国観光にとってのクルーズ振興の重要性

1. アジア地域では、経済成長に伴う所得増、船の大型化による低コスト化が加わって、クルーズ観光の需要の増大が続いている。
2. 時には乗客が数千人にも上る大型クルーズ船の寄港による経済波及効果は、1寄港あたり数億円とも試算されている。
3. 韓国など近隣諸国では、クルーズ船の寄港誘致や自国を中心としたクルーズハブの構築を国家戦略として進めている。



# クルーズ船の入港時の入国審査手続の見直し(1)

## 規制の現状

1. クルーズ船の大型化に伴い、多くの乗客が下船する際の入国審査に時間を要するケースが見受けられ、入国審査手続の迅速化・円滑化が課題の1つになっている。
2. 政府は、2012年6月から乗客数2000名超の大型クルーズ船に対しては、入国審査官が海外から乗船して、航行中に船内でパスポートをチェックする(海外臨船審査)とともに、外国人乗客に対して従来行っていた顔写真の撮影は省略する等の手続の簡素化を実施。

⇒ 入国審査の所要時間は、従来の3時間程度から1.5時間程度に大幅に短縮。

⇒ ただし、韓国や中国、台湾など近隣諸国では、海外臨船審査の着実な実施、指紋採取の省略、クルーズ・カード(\*)のみで下船可能とするなど、わが国よりも入国審査の迅速化・円滑化が進んでいる。

\*対象となるクルーズの乗客であることを証明するカードで、身分証明書、キャビンのカード・キー、クレジットカードの登録書などを兼ねたカード。

## クルーズ船の入港時の入国審査手続の見直し(2)

### 要望の内容

- 入国審査の体制の強化を図りつつ、大型クルーズ船については海外臨船審査を着実に実施する。
- 加えて、外国人乗客の利便性を向上し、入国審査官の負担を軽減するため、他国のクルーズ船への対応事例を参考に、対面式入国審査・写真撮影・指紋採取を省略する、パスポートに代えて運行会社が発行するクルーズ・カードでの上陸を認める等の新たな制度を検討・導入する。

### 要望が実現した場合の効果

- 外国人乗客の負担軽減・利便性の向上は、外国人のわが国に対する好印象を強め、訪日外国人観光客の伸び、クルーズ船寄港誘致競争の優位につながる。
- 外国人乗客のわが国での滞在時間の増加は、上陸中に観光や買い物に向ける時間の増加につながり、国内消費の増大による経済活性化に大きく貢献する。